令和７年度　赤穂西中学校区小中連携教育　活動記録

１　令和７年度　小中連携教育研究部会具体的実践

『本年度の研究テーマ』

〇小・中学校相互の授業研究を通して、子どもたちの実態の相互理解につとめる。

〇国語科の系統性を把握し、指導の継続性を求めて指導の改善を図る。小・中学校９年間を見通した指導の相互理解につとめる。

２　赤穂西中学校区の活動報告

（１）赤穂西小学校

〇実施日　：令和８年１月３０日（金）

〇単　元　：６年生国語科「知ってほしい、この名言」

〇事後協議

＜授業に関して＞

・授業の最初に漢字小テストを行ったり、調べた名言をワークシートやホワイトボードに書き写したり、まとめを自分の言葉でまとめたりすることなど、「書く力」を高めるための取組が実践されていた。意図的に授業の中で、書く活動を毎時間取り入れることで、少しずつではあるが、書く力が高まっていることが分かった。

・教室内にノートのまとめ方のポイントを掲示したり、教師のコメントが記入された単元の成果物（パンフレットや詩集）を展示したりする教室環境も児童の「書く」意欲を高めている。

・ワークシートに書いた考えを自然と見合ったり、素直に自分の考えを伝え合ったりするなど、温かい雰囲気で学ぶことができていて、小規模の良さが出た授業であった。

＜情報共有＞

・中学校でも、単元の終わりに授業で培った力を活用して、書く活動を取り入れている。例えば、物語の続きを原稿用紙に書かせ、生徒間で紹介し合っている。また、漢字の習得を目指して、毎週漢字の課題を出したり、小テストを行ったりしている。

上記の取組を参考にして、今後も**「書く力」**の向上を目指していきたい。

（２）赤穂西中学校

〇実施日　：令和８年２月１３日（金）

〇単　元　：２年生国語科「走れメロス」

〇事後協議

＜授業に関して＞

・生徒の「読む力」を高めるためのワークシートが効果的に使われていた。まずは、場面ごとの登場人物の心情を表す言葉を書きこみ、全体で共有する。次に、心情曲線を班で考え、全体で共有する。このように段階的に人物の心情に迫ることで、生徒一人一人の「読む力」が高まっていると感じた。

・単元の導入時にノートに人物相関図をまとめたり、キャッチコピーを考えたりすることで、読むことが苦手な生徒も、学習に参加することができていた。

＜情報共有＞

・小学校では、授業のめあてや発問に「なぜ～」を使うことで、児童一人一人に考える時間を設定している。そうすることで、文章に線を引いたり、場面を比較して読み取ったりする姿が見られる。この積み重ねで文章を根拠として自分の考えを構築することができる。

上記の取組を参考にして、今後も**「読む力」**の向上を目指していきたい。

３　まとめ

赤穂西小学校・赤穂西中学校相互の授業研究を通して、子どもたちの実態の相互理解につとめることができた。「書く力」や「読む力」はすぐに高くなるわけではないが、９年間を見通して、地道に実践を重ねていく必要があると感じた。また、授業後に教師間でワークシートの効果的な使い方や課題の出し方などの情報を共有することが、各校の学力向上につながると感じた。今後も、小学校、中学校で情報を積極的に共有し、スムーズな移行ができるようにしていきたい。